

	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
<p>1 伊賀市</p>	<p>対談項目1 潜在力(ポテンシャル)を活かしたまちづくり 松尾芭蕉翁について</p>	<p>ア 生誕370年記念事業について</p>	<p>松尾芭蕉生誕370年というのを、県としてしっかり発信していただければと思う。</p> <p>市民の皆さんに、外からいらした皆さんに、俳句に親しんでもらおうと、俳句を書いたものをいれていただくということで、370年に際し「投句箱」を作らせていただいた。できればどこか県の施設に置かせていただくと、今年意義のあることかと思う。</p> <p>伊賀市では、小さい頃、夏休みに俳句を作る宿題が出た。大人になってそれは無駄ではなかったと思う。四季に対する感性、言葉に対する感性というものが知らず知らず身につくということがある。</p> <p>芭蕉の俳句について、伊賀だけでなく、県内の子供たちにももっと親しんでもらえたら、感性、繊細な感情、優しさが養われるのではないかと思う。知事にリーダーシップをとってもらい、教育にも松尾芭蕉を取り入れてもらえたらと思う。</p>	<p>生誕370周年ということで、市長を先頭に委員会を設けていただき、しっかり情報発信をしていただいていることに感謝申し上げます。県としても、委員会に参画させていただき、一緒に情報発信していきたいと思っている。今年11月に、芭蕉翁に関する名所を巡る吟行と俳句大会を伊賀市で実施する予定なので、是非一緒に盛り上げていこうと思っている。</p> <p>投句箱については、三重県総合博物館と三重テラスに、1個ずつ置かせていただく。</p> <p>子供たちに直接周知しチャレンジしてもらえるようにすることはもちろん、俳句協会と一緒に、小中学校の教員を対象に俳句実践講座を開催している。教員の芭蕉や俳句のスキルアップを図ることで、子供たちが俳句に親しみ、芭蕉のことを知り、郷土愛を育んでもらう、そういう形で現在すすめているところである。</p> <p>もうひとつは、道徳で使う「心のノート」に、平成24年度から県内の偉人を掲載している。偉人を知って地域のことを学んだり、道徳教育をしていこうとしており、芭蕉についてもそれに入れさせていただいて、県内全体の子供たちに、芭蕉の偉業を知ってもらう取組をさせていただいているので、一緒に協力して取組んでいきたいと思う。</p>
<p>2</p>				

	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
3 伊賀市	対談項目1 潜在力(ポテンシャル)を活かしたまちづくり 松尾芭蕉翁について	ア 生誕370年記念事業について	<p>芭蕉というのは、偉い人で、経営的なマネジメントから使うべきものがないとの考え方から、これまで観光の面であまり取り上げられなかったことが少し残念と思う。色んな方に来ていただき、おもてなしをして波及効果を及ぼすことは、ポテンシャルの大変高いこと。</p> <p>俳句は、忍者とともに世界に通じるアイテム、切り札だと思う。</p> <p>今年生誕370年ということで、何をすべきか考えた時、芭蕉の心を世界に発信していくことが大事だと思う。</p> <p>世界無形文化遺産について、芭蕉の精神世界と俳句俳諧ということから、今年、来年でできることではないので、じっくり県にもご協力をいただいて、実現できるようにやってみたいと思うのでよろしくお願ひしたい。</p>	<p>三重県では、平成25年度から実施中の、観光キャンペーンのガイドブックに、芭蕉の俳句を掲載し、伊賀地域の観光の部分でもPRしようという取組を行っている。観光キャンペーンの中でしっかり進めていきたいと思っている。</p> <p>今回、芭蕉記念館の協力により、イギリスのワーズワース博物館で芭蕉の展示会をしていただいた。また、イギリス大使館のイギリス大使もツイッターで俳句を作っていたりと、世界的にも人気がある。</p> <p>世界無形文化遺産についても、まずは文化的価値のしっかりした調査、文化庁との調整が必要かと思うので、県としてもしっかり一緒に取組ませていただきたいと思います。</p>

		対談項目	各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
4	伊賀市	対談項目1 潜在力(ポテンシャル)を活かしたまちづくり 歴史まちづくり計画について	<p>上野というところは城下町がある、それから青山では初瀬街道、伊勢街道が通っていて、そうした景観をしっかり整備して、色んな方にきていただくことが大事かと思う。歴史まちづくり法に手を挙げましたので、整備を続けていきたい。県内では亀山市と明和町が取り掛かっておられる。2つもあるというのはなかなかめずらしく、三重県というところは歴史的な資産に恵まれている。</p> <p>今年合併して10年になる。年々1,000人くらい減っており、10万人いた人口が9万6千人。労働人口が減り、高齢者のケアが必要になる。</p> <p>それから、公共施設がこの町にはたくさんあり、1人あたり5㎡、県の平均は3.5㎡。10年経つと、年間経費が55億円必要になるが、使える市の収入は17億円しかない。これからしっかり整備していかなければならない。財政を少しでも豊かにしていくために、観光で生き、歴史まちづくり法を使って、交流人口も増やすということがずいぶん必要になってくると思う。</p>	<p>歴史まちづくり法は、亀山市、明和町それぞれにまちづくりに使っている。自分たちの町を保存活用しながら、次世代にも繋げていき、今のPRにも繋げる、非常にいい視点ではないかと思う。</p> <p>伊賀市は、登録有形文化財が、先般の中森家住宅で32件になった。四日市と同じく、県内で最も登録有形文化財が多い地域になるので、それも活かしての歴史まちづくり法はいいご提案だと思う。我々としても、計画づくり、文化庁との調整について、共にさせていただけたらと思う。</p>
		財政負担に係る支援	<p>国の交付金は45%、合併特例債の発行期限を迎えると、市の財政負担が大きくなる。まちの整備について、特段のバックアップが必要であることを折に触れて、県から国へ働きかけ、支援していただければと思う。</p>	<p>計画が認定を受ければ、国への働きかけなど共にさせていただけたらと思う。</p>
5				

	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
6 伊賀市	<p>対談項目1 潜在力(ポテンシャル)を活かしたまちづくり 三重テラスの状況について</p>		<p>三重テラスでは、昨年も伊賀物を味わう2013 in 浅草で、伊賀の米、酒などの物産について、各店舗でメニューを作っていた提供していただき好評であった。 今年も2014 in 浅草で売って行こうと思っており、三重テラスは発信していく場として大変重要なのですが、難点がある。ひとつは、仮押さえが多く、本当に必要な時に必要な日時を押えることができない。市町が優先的にとれる日を県で割り振っていただくなど、その辺の交通整理をしっかりとさせていただくことでもっと有効に使えるのではないかと。 もうひとつは、2階のフロア。建築基準法等の関係もあるか分かりませんが、例えば牛肉の網焼きなどは、煙がでると使えないという状況だが、それができるともっと可能性が広がるのに残念だと思ふ。  ショップの方には可能な限り商品知識を身につけていただき、是非販売をあげるようにしていただきたい。</p>	<p>三重テラスについては、伊賀市の事業で11月10日に有名シェフ、ドミニク・コルピさんが来ていただくなど、情報発信に活用していただき本当にありがたいと思う。 おかげさまで、昨日の営業終了時点で49万9889人来ていただき、非常に市町の皆さんにご活用いただき、お客さんに来ていただいている。 スケジュールの押さえ方については、そこは工夫できるところではないかと思うので、営業本部担当課に昨年度から置かせていただいている伊賀地域の担当と、伊賀市のご担当者の方と、具体的にどういう改善が必要かお話しさせていただいて、今より柔軟に、皆さんに使い勝手がいいような改善をしっかりとしていきたいと思う。 ハード面については、そのビル全体の規制もあり、完全にご要望にお応えできるか分からないが、1階レストランと2階の連携を図るなど、いろんな工夫をしていければと思う。 一方で、7月から、ショップの方で伊賀牛と松阪牛のお中元フェアでセット販売をさせていただいている。大変好調で、伊賀牛の人気もあり、伊賀関係の日本酒はいつもトップクラスに入っている。それ以外にも伊賀の売れるものはたくさんあり、三重テラスをご活用いただけるように、可能な限り柔軟な対応をしたいと思うのでよろしくお願ひしたい。</p>

	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
7 伊賀市	<p>対談項目1 潜在力(ポテンシャル)を活かしたまちづくり 広域的な連携について</p>		<p>伊賀は京都府、滋賀県、奈良県、3つの府県に隣接しており、水系も淀川水系であり、関西圏ということである。三重県は関西圏の部分と、東海圏の部分とあり、その特殊なポジションを活かして、多方面との連携をもっとやっていただけたらと思う。</p> <p>大事なのは情報発信力。県の方でも、情報発信を頻繁にたくさんしていただくことが大事かと思う。東海、関西に限らず、東京、あるいは世界へもお願いしたい。</p>	<p>関西方面へのPRや繋がりについて、昨年度から大阪事務所から関西事務所へ名称変更し、所長を部長級に格上げし、さらに関西戦略ということで、大阪などで行われる大きな祭りを活用したり順次進めている。</p> <p>広域連携については、全般的な連携と目的別の連携があり、目的別の連携は距離を問わないと思っている。近畿ブロック会議や紀伊半島知事会議では全般的な連携を、一方目的別には、リニアは奈良、大阪と、古代歴史文化の関係では奈良、和歌山、島根などと、道路関係では滋賀県と一緒にさせていただいた。例えば、西三重・東大和の観光の連携もあったり、目的別のところも県も一緒にサポートしながら進めていきたい。</p> <p>観光のように県境に関係ないものについては、積極的に広域的な連携を進めていくべくやっていきたいので、市長から具体的なお話があれば是非前向きに考えたいと思うのでご指導いただきたい。</p>

	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
8 伊賀市	対談項目2 安心して暮らせるまちづくり 地域医療について		<p>安心して暮らすことについて、医療というのが皆さん一番関心があって、大きな問題と思う。県民意識調査でも、伊賀市民は不安に思ってるんじゃないということが分かる。</p> <p>三重大学、県ではご心配いただいていることを身を持って実感しているが、県の医療について、伊賀も含めて今どのようにお考えか少しお聞かせいただきたい。</p> <p>違う方向から申し上げると、いなべもそうですが、伊賀も、災害・大震災という時には、物資のサポートの後方支援にしても、医療も支援基地になる。我々の地域では対応しなければいけないと思っている。</p>	<p>医師の確保について、平成22年から三重大学と県と取り組んできた。平成24年度時点では、人口10万人あたりの医師数は、三重県平均は全国平均を下回っており、伊賀地域はさらに下回っている状況。昨年度の詳細な需給調査では、2030年くらいには、医師は一定需給マッチするような状況だが、看護師は引き続きひっ迫していると出ている。しかし、全体需給はマッチするが、伊賀地域や東紀州などの地域偏在が残る。これからは医師の全体量に加え、地域偏在をなるべく小さくする取組が重要。</p> <p>伊賀地域の医療については、市長、三重大学内田学長、県とで公式、非公式に議論をし、岡本市長も精力的に建設的なご議論をいただいている。</p> <p>もともとは地域医療再生計画の中で、3病院の統合という将来的な拠点病院の整備というのがあったが、それをまずステップで進めていこうということになっている。県としては、将来的なものをにらみつつ、当面は救急医療体制の充実強化を大事に、連携強化していく。</p> <p>上野は消化器外科の関係の救急医療、がんの医療が得意で、在宅、緩和ケアに力を入れていただくと聞いている。岡波病院はそれ以外の救急医療をしっかりとやっていただく。名張市も医師確保しながら、伊賀地域の輪番制の中で救急医療を充実していただく、というように、それぞれの得意分野で充実強化を図りつつ、将来的な経営統合を考えている。</p> <p>将来像については、医師会、両市としっかり協議をし、当面は、今回の医療改正での病床機能報告制度における、県が策定する地域医療ビジョンに伊賀地域をどうはめ込んでいくか、一緒に議論していきたい。</p> <p>岡本市長には就任以来一貫して災害時のバックアップの意思表示をしていただいている。連携をしっかりとらせていただきたい。</p>

	対談項目	各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
9	伊賀市 対談項目2 安心して暮らせるまちづくり ダム関連事業等の推進について	1 内水面漁業権について ダムについてお世話になり、ようやく前に進んでいくことになり改めて感謝申し上げたい。 治水利用は大変重要で、ダムができるまでの河道掘削が重要になってくる。去年も、土砂の堆積を撤去するための特別予算をいただき、今年の台風の被害が少なかった一つの要因かと感謝している。引き続きお願いしたい。 ダムについて内水面漁業権というの大きな課題になってくると思う。10月1日から3月20日の休漁期しか土木工事ができないことになっている。災害に備えるためには緊急性が必要なので、それが担保されるようになればと思っている。 今後、河川整備、ダム工事において、漁業権が大きな課題になってくると思う。	川上ダムも先般、国交省の有識者会議で妥当との判断があり、国交大臣が近く方針を示すことになっている。岡本市長にもご尽力いただきありがとうございました。 治水の重要性は十分認識しており、河床掘削や河川堆積土砂の撤去について、地元の建設事務所と伊賀市と、どういう順番でどういう計画でやるのか議論、相談させていただければと思う。 内水面の関係で、漁期と関係のある10月から3月しか工事ができないことについて、漁業組合も、災害復旧や、人の命に関わる部分の緊急優先度、必要性の高い工事については協力すると言っていたので、よく相談していきたい。
10		2 フナの漁業権付与について フナにも漁業権が設定された。子供も楽しみに採るような魚で、今後いくつかの課題を残さなければと思っている。	漁業権が設定されていることを、もっと市民の皆さんにさせていただくべきではないか、付与した側の県としても周知に努めるようにというご指摘をいただいたと思っている。法律上も漁業権を受けた人が周知していくことになっているので、漁業者の皆さんがしっかり周知できるよう、我々もしっかり働きかけ、サポートをしていきたいと思っている。 子供からは遊漁料をとらないようにさせていただいている。

	対談項目	各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
11	伊賀市 対談項目2 安心して暮らせるまちづくり ③鉄道交通について	伊賀鉄道伊賀線について 伊賀鉄道の平成29年度からの新しいスキームの協議を始めている。伊賀地域においては南北を結ぶ背骨のようなものであり、JR、近鉄を結ぶ基幹的な交通手段である。今年、地域の方たちが先頭になって、四十九駅を復活させ、新設してもらいたいという請願が議会に提出され、全会一致で採択された。議会においては、将来に向かい、伊賀鉄道を守っていくことを確保していただいたと思っている。新設にあたっては県の支援をお願いしたい。	伊賀鉄道伊賀線については、厳しい経営環境にあるが、伊賀市、伊賀鉄道、近鉄、県とで、勉強会において一緒に議論させていただきたい。地域の皆さんの要望、声は大きいもの。思いを大切にすることが必要と思っている。新駅の設置の場合、国が1/3の協調補助という幹線鉄道等活性化事業費補助金が活用できる。具体的な構想を取りまとめていただき、申請にあたっては、県も一緒になってアドバイス、協議させていただきたい。
12		伊賀線は、通勤・通学時間帯の何にも勝る交通手段となっていることから、しっかりと残していくことが大事だと思っている。自分たちの町は自分たちで作るという気合を持って、財政的な面では市も県も大変だが、お互い覚悟を持ってやっていかなければいけないと思う。今後ともよろしくお願いしたい。	
		伊賀神戸駅のバリアフリー化について、協調補助で引き続きお願いしたい。	伊賀神戸駅のバリアフリー化については、後は多機能トイレと内方線の一部を残すのみとなっている。全般的に県内で段差解消をまず優先的に実施しており、段差解消のできていない駅を優先的にするという基本的なスタンスの中で、伊賀神戸駅のバリアフリー化を、どのタイミングでどのように実施していくか、協議、議論させていただきたい。